



未来投資戦略

菊地 忍

問 安倍政権は、デジタル新時代が進む世界情勢を踏まえ、平成30年6月15日、未来投資戦略2018を閣議決定した。「未来投資戦略2018」という新たな戦略を打ち出すための一つにRESAS(リーサス)の活用がある。リーサスは誰でも使えるシステムで自分が住んでいる町のデータを参照し、さまざまな角度から分析することで他市町村と比較することもできる。これらのデータから未来への戦略などさまざまなアイデアが生まれてくることを目的としている。

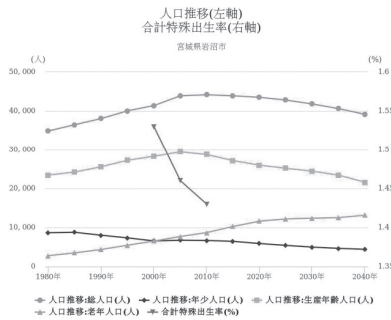
「データ駆動型社会への変革」が求められる昨今、岩沼市はリーサスをどのように活用しているのか伺う。

復興創生課長 リーサスについては、地方創生拠点整備交付金を活用した公設跡地事業や、「ひまわり」のたねと建設の交付金申請の際、参考にしました。

データに基づいた政策を

問 岩沼市の人口推移と合計特殊出生率のグラフ(下段参照)である

が、このように誰もが自由に無料で参照することができ。これらのデータから「さまざまな政策」を考えていく必要があると思うが市長の見解を伺う。



出典：地域経済分析システム

市長

リーサスのデータ分析をしっかりとできるような人材育成をしていきます。将来の戦略策定には、詳細なデータを分析し、どこに岩沼は生き残りをかけるのか、そういった取組がこれからは必要だと思えます。

◎その他の一般質問

- 安全・安心なまちづくり
- PPP・PFI手法の活用
- 市民バスとデマンドタクシーの運行



ヘルプカード・ヘルプマークの啓発と普及

布田 恵美

問 岩沼市の社会福祉課のサイトを見ると、ヘルプカードは内的なハンディキャップや認知症のある方が携帯するものと位置付けられている。どの程度認識され利用されているのか、現状と見解を伺う。

健康福祉部長 平成28年7月から市で導入され、昨年のアンケートによると約3割の方が認識され、身体障害者手帳を持つ方の約5%がヘルプカードを所持しています。



ヘルプマーク

せる岩沼を目指してはどうか伺う。

健康福祉部長 市としてこれまで導入していませんが、今年度、県において新たに導入すると伺っていますので、県の実施を踏まえてヘルプカードとともに、普及啓発活動を行いたいと考えます。

早急に周知・啓発活動を

問 ヘルプマークは昨年7月20日、経済産業省において2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて案内用図記号にも追加されている。岩沼市としても早急に市のホームページや広報紙、ポスターなどでも積極的に周知・啓発していくべきと思うが、市長の考えを伺う。

市長 県の動向を見て、市で一緒にやれるのなら、障がい者の皆さんのプラスになるように、すぐにもやってみたいと思います。

◎その他の一般質問

- 安全・安心な暮らしのために